

## 廃炉・汚染水対策チーム会合 第29回事務局会議 議事概要

日時: 2016年4月28日(木) 10:00~12:10

場所: 東京電力 本社 本館11階1101・02会議室／福島第一免震棟2階会議室  
／福島第一新事務棟2階会議室／福島復興本社(復興推進室)

出席者:

岡本教授(東大)

尾澤審議官、湯本室長(資工庁)、板倉審議官(文科省)、今井室長代理(規制庁)

森山理事(JAEA)、劔田理事長(IRID)、五十嵐理事(賠償・廃炉機構)、  
金山理事代理(産総研)、横山常務理事代理(電中研)、飯倉理事(東芝)、魚住 CEO(日立)、  
姉川主幹技師(三菱重工)、増田 CDO 代理(東電) 他

議事:

### 1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があり、現状について関係者で情報を共有した。

### 2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力、ATOX、JAEA、廃炉機構、資工庁より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
  - ① 陸側遮水壁の状況(第一段階 フェーズ1)
  - ② 高温焼却炉建屋内における堰内漏えいについて
  - ③ 高温焼却炉建屋滞留水水位の運転上の制限の逸脱について
  - ④ G6 タンクエリア移送配管からのストロンチウム処理水の滴下について
  - ⑤ サブドレン No.4 中継タンク 堰内における配管フランジ部からの地下水滴下について
  - ⑥ 1号機建屋カバー解体工事の進捗状況について
  - ⑦ 3号機原子炉建屋オペレーティングフロア除染・遮へい工事について
  - ⑧ スラリー安定化技術の選定要件整理および適用性試験結果について
  - ⑨ 福島第一原子力発電所構内で採取した瓦礫の分析
  - ⑩ 循環ループ縮小化工事の対応状況について
  - ⑪ タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
  - ⑫ 福島第一原子力発電所敷地内の線量低減の進捗状況について
  - ⑬ 福島第一原子力発電所における2015年度災害発生状況、2016年度安全活動計画
  - ⑭ 第1回福島第一廃炉国際フォーラムの概要
  - ⑮ 平成27年度補正予算等「廃炉・汚染水対策事業費補助金」に係る第一次公募の採択結果
  - ⑯ 廃炉研究開発連携会議(第3回)の開催について

⑰ 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の  
廃炉のための技術戦略プラン 2016 について

- ・ 主なやりとりは以下の通り

<陸側遮水壁の状況(第一段階 フェーズ 1)>

- Q. 1号機海水配管トレンチについて、このままの傾向で立坑 B の水位が上昇した場合、4/29には立坑坑口の標高を超えるのではないか。現状の水位はどの程度か、水移送は連休中にも実施する予定か。(規制庁)
- A. 水位の上昇傾向は鈍くなっており、4/27 時点では 2m 以上の余裕がある。至近の水位上昇傾向で直線外挿した場合、5/1 又は 5/2 頃に立坑坑口へ達する見込みである。トレンチ内の水を移送できるよう、連休中も体制を整え監視・移送する。(東電)
- Q. 汲み上げた場合の移送先はタービン建屋か。(湯本室長)
- A. 塩分が濃く放射能濃度が薄い水のため、淡水化装置の処理水のタンクへ移送する予定である。(東電)
- C. 1号機海水配管トレンチにつき、他の立坑の水位測定も検討頂きたい。(尾澤審議官)

<高温焼却炉建屋内における堰内漏えいについて>

- C. 当該企業以外への水平展開についても、しっかりと実施して頂きたい。(湯本室長)

<高温焼却炉建屋滞留水水位の運転上の制限の逸脱について>

- Q. 水位監視頻度を 3 回/日から 5 回/日に増加したとのことだが、具体的な時間帯を教えてください。(湯本室長)
- A. 7 時、12 時、16 時、22 時、3 時の 5 回である。HTI 建屋への最大移送流量、LCO 水位までの作業時間余裕を踏まえ、上記の時間間隔としている。(東電)

<G6 タンクエリア移送配管からのストロンチウム処理水の滴下について>

- Q. 当該フランジ部は PE 管と鋼管の異材の接続部であり、フランジ締め付けのトルク管理が難しいのではないか。(廃炉機構)
- A. PE 管のフランジ面にはリング状の鋼材が付けられており、鋼材に適したトルクで管理している。(東電)

- Q. 保温材内部に溜まっていた水も含めて約 2.7L の漏えい量なのか。(岡本教授)

- A. 保温材内部の吸収材に溜まっていた水約 12L は含まれていない。約 2.7L は地面に滴下した水量である。(東電)

- Q. フランジ部全てを確認するのは膨大なメンテナンス量となり、現実的に対応できるのか。(岡本教授)

- A. 多数のフランジ部があるが、外観点検にて雨水等による吸水材のふくらみを確認し、1 年に 1 回程度交換する。(東電)

- Q. フランジ部だけでなくバルブの軸部も漏えいリスクがあるのではないか。(岡本教授)

- A. バルブの軸部については保温材等がまかれておらず、通常のパトロールで確認できる。(東電)

- Q. ポンプの起動停止時の脈動対策は実施しないのか。(湯本室長)  
A. しばらく使用していない配管について、エアーの混入を完全に防止するのは難しい。  
(東電)

<サブドレン No.4 中継タンク堰内における配管フランジ部からの地下水滴下について>  
C. 構内には膨大な量の配管類があり、今後も清掃・点検作業後の復旧時に同様の事が想定される。作業員の方への教育・周知をして頂きたい。(湯本室長)

<サブドレン他水処理設備の状況について>

- Q. 至近の地下水ドレンからタービン建屋への移送量は減少しているが、今後どのように推移していくのか。(岡本教授)  
A. 可能な限り集水タンク側へ移送するが、降雨等の影響により各地下水ドレンポンドのトリチウム濃度、汲み上げ量が変動するため、濃度を確認しながら日々運用している。  
(東電)  
C. これから梅雨もあり、タンク計画にも影響するので、タービン建屋への移送量の予想も含め、タンクシミュレーションに適宜反映頂きたい。(岡本教授)

<福島第一原子力発電所構内で採取した瓦礫の分析>

- Q. 1号機タービン建屋地下の砂の分析結果について、アルファ核種はバックグラウンドレベルであり、アルファ核種による汚染はタービン建屋へ移行していないということか。  
(岡本教授)  
A. 今回、分析結果が得られたタービン建屋の砂は地下階上層部の露出した床面からの砂であり、地下階下層部床面から採取したスラッジ分の分析は今後予定している。  
(東電)

<2015年度災害発生状況、2016年度安全活動計画>

- Q. 「ベリフィケーション(検証)による水平展開の強化」に記載されている新たな取り組みとは具体的にどの様なことか。(湯本室長)  
A. 過去の水平展開がどのように現場にて実行されているかのチェックリストを作り、実行できていない場合は是正していく。また、元請企業毎に水平展開をどのように作業員の方へ浸透させるかの「アクションプラン」を策定して頂き、その実施状況について当社がインタビュー等にて検証していく。(東電)  
Q. 年1回程度のサイクルで検証するのか。(湯本室長)  
A. 具体的な頻度は検討中であるが、年1回以上の頻度としたいと考えている。(東電)

### 3. その他

- ・ 次回は、2016年5月26日(木)に開催する方向、確定次第別途連絡する。  
(湯本室長)

以上